

「包む」に挑む
「包む」を創る

第58期株主通信

2019年1月1日～2019年12月31日

ダイナパック株式会社

証券コード：3947

ごあいさつ

お客様の“笑顔”が私の報酬です。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ダイナパックは創業以来“包装”を通じて人から人へ、企業から企業へとおお客様の想いを大切に包んで世界中に届けてまいりました。

これからはさらに加速する市場の変化、技術革新、ニーズの多様化が予想されます。

しかし、モノを包む“包装”を通じて人から人へ、企業から企業へと想いを大切に届けるという基本哲学は変わりません。私たちはそれをさらに向上させるべく、技術力、デザイン力、マーケティング力、提案力、スピード力などに磨きをかけ、お客様の満足を勝ちとりたいと思っています。

私は全社員と心をつにして、ダイナパックならではのイノベーションを創出し、お客様の期待に応え、世界中の人々から笑顔の報酬を頂けるよう努力を重ねてまいります。



今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ここに当社第58期（2019年1月1日から2019年12月31日まで）株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月

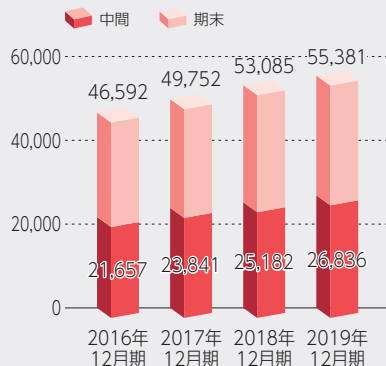
代表取締役社長 杉山 喜久雄

業績ハイライト

● 売上高

(単位：百万円)

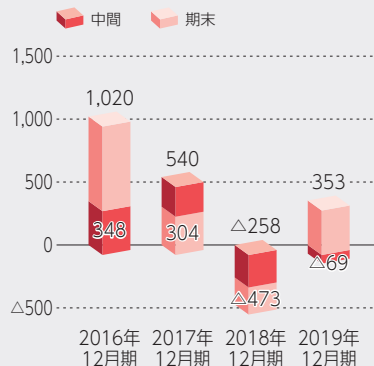
553億81百万円（前期比4.3%増）



● 営業利益

(単位：百万円)

3億53百万円（前期は4億73百万円の営業損失）

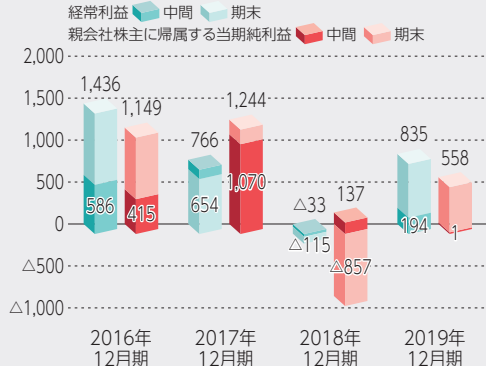


● 経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)

8億35百万円（前期は1億15百万円の経常損失）

5億58百万円（前期は8億57百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）





経営環境について

当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出や鉱工業生産の伸び悩みのほか、消費税率の引き上げに伴う個人消費への下押し影響も生じ、年後半にかけて足踏む状況に至りました。企業の設備投資は増加基調であるものの、製造業では減収予想に転じる動きもあり景況感も弱含みとなりました。海外経済においても、米国景気の好調は続いたものの、中国経済の減速、米中貿易摩擦の影響、英国のEU離脱問題に加えて地政学的リスクも点在しており、不透明な状況が続きました。

段ボールの国内消費動向は、各需要分野において安定した状況が続きましたが、業界全体の年生産量はほぼ前年並みとなりました。

当期の取り組み

当社グループの国内段ボール販売数量は、主力分野の食料品では比較的堅調に推移したほか、通販分野での伸長もありましたが、自然災害による影響等により前年比97.8%となりました。

収益面では、2018年12月から鋭意取り組んできた製品価格の改定に関して、上半期においては原材料値上りの先行負担による影響が残っていましたが、下半期においてはその効果が現れてきました。

海外事業については、中国での販売は米中貿易摩擦の影響を受けましたが、マレーシアにおける現地段ボールメーカーのグループ入りによる販売の増加や、ベトナムでの寄与により堅調に推移しました。

中長期的な経営施策としては、海外事業における成長戦

略と国内事業における差別化戦略を推進してまいります。

マレーシア市場においては、2019年4月にグループ入りした現地段ボールメーカー（DYNAPAC GF (MALAYSIA) SDN.BHD.）で段ボール製造販売を本格化してまいります。ベトナムにおいては2拠点（ハノイ、ハイフォン）の設備増強を行い、現地で高まっている段ボール需要を取り込んでまいります。

SP（セールスプロモーション）事業部においては、デジタル印刷機やグループの総合力を活用し幅広いユーザーの販促資材需要を開拓してまいります。また、2020年1月にグループ化した㈱小倉紙器では特徴ある製品での差別化により、静岡地区における当社グループの存在感を高めてまいります。

新・中期経営計画達成に向けた構造改革においては、2018年7月にグループ入りした旭段ボール(株)を軸として、関東地区の段ボール製造拠点が連携し、適地生産推進による収益改善に注力してまいります。

以上の結果により、当社グループの業績は次のとおりとなりました。

〔連結〕

売上高	55,381百万円	前期比 104.3%
経常利益	835百万円	(前期は115百万円の経常損失)
親会社株主に帰属する当期純利益	558百万円	(前期は857百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)

対処すべき課題

今後の日本経済については、政府は基調判断を2019年8月から11月まで4カ月連続で悪化としているほか、一部では景気後退局面に入りつつあるとの見方も出てきており、予断を許さない状況が続くものと考えられます。

段ボールの需要は世界的に堅調に推移するほか、当期の国内の需要については業界全体では100.7%と予測されております。

段ボール原紙およびその原材料である段ボール古紙については、日本国内における供給環境や中国および東南アジアでの規制動向などの変化が予測されるため、その動向を注意深く観察してまいります。

このような環境において当社は、採算性の維持向上に取り組んでまいります。また、環境の変化に対応するために構造改革を完遂し、中長期視点での成長戦略および差別化戦略を遂行し競争力を高めるとともに、財務基盤やコーポレート・ガバナンスの維持強化に努め企業価値の向上を目指してまいります。

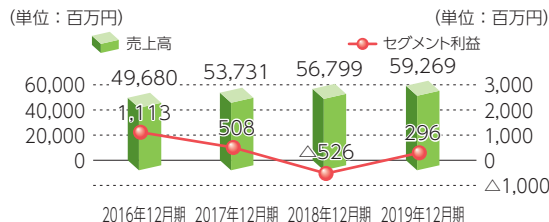
セグメント別概況

包装材関連事業

事業内容

段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器、美粧段ボールケース、オフセット印刷物、プラスチックフィルム等の製造販売、機械設備等の販売

当セグメントにおきましては、売上高は59,269百万円（前期比104.3%）、セグメント利益（営業利益）は296百万円（前期は526百万円のセグメント損失）となりました。



不動産賃貸事業

当セグメントにおきましては、売上高は390百万円（前期比99.5%）、セグメント利益（営業利益）は325百万円（前期比100.0%）となりました。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 2018年12月31日現在	当期末 2019年12月31日現在
資産の部		
① 流動資産	21,438	21,704
② 固定資産	42,692	40,856
有形固定資産	21,354	21,475
無形固定資産	621	373
投資その他の資産	20,717	19,007
資産合計	64,131	62,561
負債の部		
③ 流動負債	19,837	19,396
④ 固定負債	7,490	7,448
負債合計	27,327	26,844
純資産の部		
株主資本	28,961	29,011
その他の包括利益累計額	7,794	6,652
新株予約権	9	8
非支配株主持分	37	44
⑤ 純資産合計	36,803	35,716
負債純資産合計	64,131	62,561

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	当期 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
売上高	53,085	55,381
売上原価	45,660	46,953
売上総利益	7,424	8,427
販売費及び一般管理費	7,897	8,073
営業利益又は営業損失(△)	△ 473	353
経常利益又は経常損失(△)	△ 115	835
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 857	558

連結キャッシュ・フロー計算書

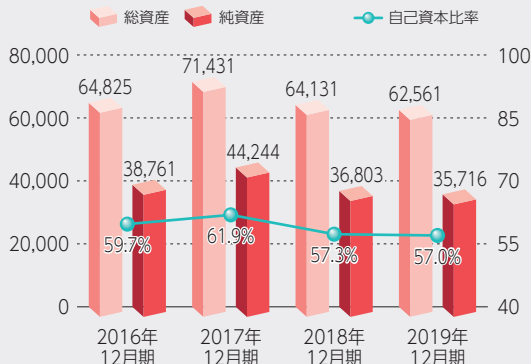
(単位：百万円)

科目	前期 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	当期 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー	809	2,685
⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 208	△ 1,415
⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 205	△ 923
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 18	△ 13
現金及び現金同等物の増減額	376	332
現金及び現金同等物の期首残高	1,210	1,586
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	—	77
現金及び現金同等物の期末残高	1,586	1,997

総資産／純資産／自己資本比率

(単位：百万円)

(単位：％)



Point

- ① 流動資産では、現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ2億66百万円増加し217億4百万円となりました。
- ② 固定資産では、投資有価証券の含み益の減少などにより、前連結会計年度末に比べ18億36百万円減少し408億56百万円となりました。
- ③ 流動負債では、仕入債務の増加および短期借入金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ4億41百万円減少し193億96百万円となりました。
- ④ 固定負債では、長期借入金の増加による増加要因がある一方で、投資有価証券の含み益が減少したことに伴う繰延税金負債の減少などの減少要因がそれを上回ったことにより、前連結会計年度末に比べ41百万円減少し74億48百万円となりました。
- ⑤ 純資産では、投資有価証券の含み益の減少などにより、前連結会計年度末に比べ10億87百万円減少し357億16百万円となりました。
- ⑥ (営業活動によるキャッシュ・フロー)
営業活動により得られた資金は26億85百万円（前連結会計年度は8億9百万円）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益8億13百万円、減価償却費18億92百万円およびのれん減損損失3億18百万円などによるものであります。
- ⑦ (投資活動によるキャッシュ・フロー)
投資活動により使用した資金は14億15百万円（前連結会計年度は2億8百万円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出14億84百万円、子会社株式取得による支出2億59百万円および投資有価証券売却による収入5億14百万円などによるものであります。
- ⑧ (財務活動によるキャッシュ・フロー)
財務活動により使用した資金は9億23百万円（前連結会計年度は2億5百万円）となりました。これは主に、長期借入金による収入10億円、長期借入金の返済5億42百万円、短期借入金の減少8億19百万円および配当金の支払4億93百万円などによるものであります。

会社情報



会社概要 (2019年12月31日現在)

商 号	ダイナパック株式会社
所 在 地	〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目14番15号
資 本 金	40億円
従 業 員	2,149名 (連結) 669名 (単体)
設 立	1962年 (昭和37年) 8月
事 業 内 容	段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器、美粧段ボールケース、オフセット印刷物、プラスチックフィルム等の製造販売、機械設備等の販売、不動産の賃貸

役員 (2019年12月31日現在)

代 表 取 締 役 社 長	杉 山 喜久雄	取 締 役	富 澤 豊
代 表 取 締 役 副 社 長	齊 藤 光 次	常 勤 監 査 役	仲野谷 公 美
取 締 役 常 務 執 行 役 員	大 山 英 男	監 査 役	蟹 江 睦 久
取 締 役 常 務 執 行 役 員	野 澤 政 司	監 査 役	加 納 敏 孝
取 締 役 常 務 執 行 役 員	草 野 雅 夫	監 査 役	児 玉 弘 仁
取 締 役	深 井 靖 博		

- (注) 1. 取締役の深井靖博氏および富澤豊氏は、社外取締役であります。
2. 監査役の蟹江睦久氏、加納敏孝氏および児玉弘仁氏は、社外監査役であります。
3. 当社は、取締役の深井靖博氏および富澤豊氏並びに監査役の加納敏孝氏を東京・名古屋両証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

ネットワーク



国内事業所 7
国内グループ会社 8
海外グループ会社 8



知多出張所
神原段ボール(株)

川越事業所



旭段ボール(株)厚木工場
松本事業所



ダイナパック(株)本社

多治見ダイナパック(株)
土岐ダイナパック(株)中津川工場

国内・海外に広がる、ダイナパック・グループ

ダイナパック(株)本社



宇都宮ダイナパック(株)
旭段ボール(株)岩槻工場
クラウン紙工業(株)
東京営業所
沼津ダイナパック(株)



静岡事業所

宮城ダイナパック(株)古川工場

宮城ダイナパック(株)登米工場



つくば事業所

旭段ボール(株)本社



土岐ダイナパック(株)

2019年4月1日付けで、GRAND FORTUNE CORPORATION SDN.BHD.の株式を取得し、子会社化しました。
なお、同社は2019年9月20日付けでDYNAPAC GF (MALAYSIA) SDN.BHD.に社名を変更しております。

株式情報

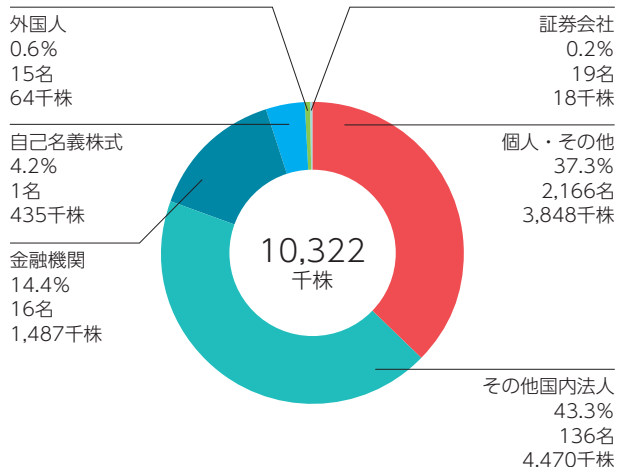
発行済株式総数 9,888,009株 (自己株式434,582株を除く。)
株 主 数 2,353名
単 元 株 式 数 100株
大 株 主 の 状 況

(2019年12月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
カゴメ株式会社	1,823千株	18.4%
ダイナパック取引先持株会	932	9.4
株式会社三菱UFJ銀行	313	3.2
伊藤忠紙パルプ株式会社	289	2.9
丸紅紙パルプ販売株式会社	277	2.8
レンゴー株式会社	275	2.8
王子マテリア株式会社	272	2.8
第一生命保険株式会社	268	2.7
大王製紙株式会社	241	2.4
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	210	2.1

(注) 1. 持株比率は自己株式を控除し算出しております。
2. 当社は自己株式434千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

● 所有者別株式分布状況



ホームページのご案内

当社の

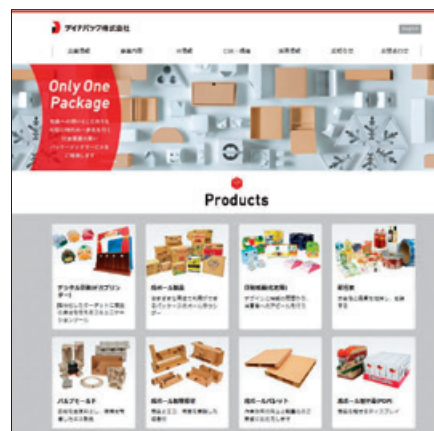
- 会社情報
- IR情報
- 採用情報

などはこちらからご覧ください。

ダイナパック

検索

<https://www.dynapac-gr.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月下旬
単元株式数	100株
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年 6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店で行っております。
電子公告・決算情報掲載の ホームページアドレス	https://www.dynapac-gr.co.jp/koukoku.htm

(ご案内)

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

TOPIC

小倉紙器を子会社化



2020年1月20日付けで、株式会社小倉紙器を子会社化しました。

小倉紙器は、1960年の創業で、静岡県静岡市に生産拠点を構え、特徴のある製品と高い営業実績を有しており、従業員が約50名の会社です。

当社は、中期経営方針において、中京圏から関東圏にあって、当社グループの強みを発揮、存在感のある企業を目指すことを掲げています。

同社が当社グループに加わることで更なる企業価値の向上を実現してまいります。

ダイナパック株式会社

本社：名古屋市中区錦三丁目14番15号

TEL：052-971-2651



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。